

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2012-166819

(P2012-166819A)

(43) 公開日 平成24年9月6日(2012.9.6)

(51) Int.Cl.
B65D 75/36 (2006.01)F I
B65D 75/36テーマコード (参考)
3E067

審査請求 未請求 請求項の数 3 O L (全 9 頁)

(21) 出願番号 特願2011-28927 (P2011-28927)
(22) 出願日 平成23年2月14日 (2011.2.14)(71) 出願人 591230619
株式会社ナリス化粧品
大阪府大阪市福島区海老江1丁目11番17号
(72) 発明者 木下 哲治
大阪府大阪市福島区海老江1-11-17
株式会社ナリス化粧品内
Fターム(参考) 3E067 AA11 BA33A BC07A EA32 EB27
EE60 FA01 FB02 FC01

(54) 【発明の名称】 プリスターパック

(57) 【要約】

【課題】

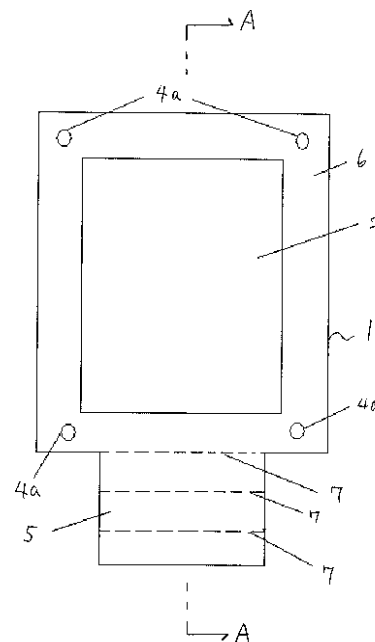
本発明は上記の背景技術に鑑みてなされたものであって、本発明の目的は、少なくとも一方に内容物を収納する収納部2を有するシート面を接合して包装するプリスターにおいて、内容物の回転を防止し、経時的に収納部2のR部に撓みが生じることなく、消費者が内容物を取り出す際においては、取り出しやすいプリスターを提供することにある。

【解決手段】

内容物を収納する収納部2内側に設置可能なように、舌部を設けることで、本発明を完成した。更には、本舌部の位置を特定の部位に設けることにより、一体成形も可能にした。

【効果】

本発明によれば、簡易な構造で、輸送時等における内容物の回転を防止することが出来る。本構造では、内容物を強固に固定しないので、消費者が商品を取り出す際には、容易に内容物を取り出すことが出来る。更には、経時的に収納部2のR部に撓みが生じないので、商品とし



【特許請求の範囲】

【請求項 1】

少なくとも一方に収納部を有するシート面を接合して包装するブリスターにおいて、ブリスター外周部に舌部を少なくとも 1 つ以上設けたことを特徴とするブリスターパック。

【請求項 2】

舌部を挿入した際に、舌部の形状が、くの字状、ジャバラ状であることを特徴とする請求項 1 記載のブリスターパック。

【請求項 3】

収納部内にリブを設けたことを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 記載のブリスターパック。

10

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

本発明は、ブリスターパックに関する。

更に詳しくは、シート面を接合して包装するブリスターにおいて、少なくとも一方に商品等の被包装体（以下、内容物）を収納する空間（以下、収納部）を有し、当該収納部の下部に舌部を設けたブリスターに関する。

20

【背景技術】

【0002】

従来から、少なくとも一方に収納部を有するシート面を接合することで、内容物を収納するブリスターは、多用されている。しかしながら、内容物が円柱状の場合、輸送時等において内容物が回転し、店頭で納品された際には、内容物の表示が正式な位置からずれ、表示の判読が困難な状態になったり、美観を損ねていた。

【0003】

内容物の回転を防止する方法として、収納部内側にリブを設け、内容物を強固に固定する試みがされている。

30

しかしながら、内容物を強固に固定すると、消費者が内容物を取り出す際に、取出しが困難になる場合があった。更には、経時的にブリスターの収納部の角部等の R 部に撓みが生じ、外観を損ねていた。

【先行技術文献】

【特許文献】

【0004】

【特許文献 1】特開 2004-149168 号

【発明の開示】

40

【発明が解決しようとする課題】

【0005】

本発明は上記の背景技術に鑑みてなされたものであって、本発明の目的は、少なくとも一方に内容物を収納する収納部を有するシート面を接合して包装するブリスターにおいて、内容物の回転を防止し、経時的に収納部の R 部に撓みが生じることなく、消費者が内容物を取り出す際においては、取り出しやすいブリスターを提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【0006】

内容物を収納する収納部内側に設置可能なように、舌部を設けることで、本発明を完成

50

した。更には、本舌部の位置を特定の部位に設けることにより、一体成形も可能にした。

【発明の効果】

【0007】

本発明によれば、簡易な構造で、輸送時等における内容物の回転を防止することが出来る。本構造では、内容物を強固に固定しないので、消費者が商品を取り出す際には、容易に内容物を取り出すことが出来る。更には、経時的に収納部のR部に撓みが生じないので、商品としての美観を保つことが出来る。

【発明を実施するための最良の形態】

【0008】

以下、本発明に係るプリスターパックを実施する為の最良の形態に関し、図面を参照して詳細に説明するが、本発明が以下の実施例に限定されるものでないことは、言うまでもない。

本発明では、シート的一方のみに収納部を有する場合でも、両方に収納部を有する場合でも効果を発揮するが、以下、シート的一方のみに収納部を有するプリスターを主体に説明をする。特段の説明がない限り、収納部を有しないシートの図面は従来通りであるので省略する。

【0009】

図1は、従来のリブ付きプリスターであって、内容物（例えば、蓋付容器）を収納した状態のプリスターを開いた状態の平面図である。収納部2の側面に凸状のリブ3が設けられている。収納部2底面には、商品が落下した際に、内容物の破損を防ぐ緩衝効果を期待して凸状、或いは、凹状のリブ3が設けられている（図1では、凸状の場合を示す）。

【実施例1】

【0010】

図2は、舌部5を1箇所設けた場合のプリスターを開いた状態の平面図である。

舌部5は、収納部2下方のプリスター外周部6に延接される。本舌部5を適宜折り曲げ、内容物10の底面に挿入する。

図3に、舌部5を挿入した状態の断面図を示す。舌部5は、内容物10の底面を押し上げるような形で、内容物10の回転を防止している。

【実施例2】

【0011】

図4は、舌部5を3箇所設けた場合のプリスターを開いた状態の平面図である。

舌部5は、舌部5が1箇所の場合と同様に、適宜折り曲げ、内容物10の底面や側面に挿入する。内容物10の側面も固定されるので、図2のタイプより、内容物の回転が防止される。

【実施例3】

【0012】

図5は、舌部5と、リブ3を併用した場合のプリスターを開いた状態の平面図である。

このように、舌部5だけでなく、リブ3を併用することも可能である。容器の形状に応じて、効果的にリブ3と舌部5を設けるのが好ましい。この場合、舌部5のみで、内容物10の回転を防止することが出来ているので、リブ3は、従来のように内容物10を強固に押さえる構造にする必要はない。従って、リブ3を追加したことで、R部9に撓みが生じることはない。以下の実施例において、リブ3を併用した場合も同様のことが言える。

【実施例4】

【0013】

今までは、接合するシート面が分離されたタイプのプリスターについて言及してきたが、一体成形することも可能である。この場合、接合するシート面をどの位置で、繋がった状態にさせるかによって、舌部5の設置場所に制限が出てくるが、容器の形状によって、適宜調整することで、横開き、縦開きどちらの場合であっても成形が可能になる（図示せず。）。

【実施例5】

【0014】

図6は、前述のように一体成形した場合において、舌部5とリブ3を併用した場合である。容器の形状に合わせて適宜舌部5とリブ3を使用すれば、内容物10の回転をより押えることが可能になる。

10

【実施例6】

【0015】

図7は、両シートに収納部2がある場合のA-A断面図である。ここまで、一方のシートに収納部2を有するプリスターに関してのみ言及してきたが、本内容は、両シートに収納部2を有するプリスターであっても、利用出来る。

この場合、左側のシートと、右側のシートに設けられた舌部5が、内容物10に対して、異なった方向に押さえる力が働くので、より効果的に内容物10の回転を防止することが出来る。

20

【0016】

以下に、本発明の舌部5について詳述する。

本発明の舌部5の形状は、特に限定されない。効果が発揮される範囲で適宜調整される。開示した図面はすべて長方形であるが、内容物10の形状や、プリスター1の形状に合わせて、長方形の他に、正方形、台形、三角形、扇型等にしても差し支えない。

【0017】

本発明の舌部5の折り曲げ方は、特に限定されない。

30

図8は、舌部5のバリエーションの拡大図である（図3破線円部分の拡大図）。内容物10の底面に挿入される際には、外側に開いた「くの字」状だけでなく、ジャバラ状（a）や、内側に折り込んだ「くの字」状（b）にすることも出来る。ジャバラ状については、図8（a）よりも、ジャバラの数を増やしてもよいし、図8（b）のように、内側に折り込んでも問題ない（図示せず）。

【0018】

本発明の舌部5の大きさ（幅）は、効果を発揮する範囲であれば特に限定されない。収納部2に挿入出来る大きさであれば良く、天面や底面に設ける場合は内容物10の幅に対して、側面に設ける場合は内容物10の高さに対して、6分の1以上が望ましい。それより少ない場合は、内容物10の回転を防止する力が弱くなるので、複数舌部5を設ける必要がある。

40

好ましくは、5分の1以上、より好ましくは、4分の1以上である。幅が広くなれば、なるほど、内容物10の回転を防止する効果が高くなるので、望ましい。

【0019】

本発明の舌部5の数は、特に制限されない。内容物の大きさ、形状に応じて適宜調節が可能である。

従来のリブ3と併用することも可能である。

【0020】

50

本発明の舌部 5 の厚みは、特に制限されない。舌部 5 を折り曲げた際に、弾性力が働く程度の厚みであれば良く、シート面が接合可能な様に適宜調整される。もっとも、過度の厚みであると、舌部 5 とプリスター外周部 6 が接する部分については、シート面を接合した際に隙間が生じる恐れがあるので、その場合は、図 1 1 のように、舌部 5 を設ける。図 1 1 は、構造を分かり易くする為、舌部 5 を折り曲げずに伸ばしたままの状態、シート面を接合し、底面から見た状態を示している。シートの厚みと同程度の窪み部 1 1 を設けると舌部 5 を挿入した際に、隙間が生じないので好ましい。

【産業上の利用可能性】

【0021】

10

本発明のプリスター 1 は、各種内容物 1 0 を収納する包装体として用いることが出来、特に円柱形の容器において、輸送時等に起こる内容物の回転を防止することが出来る。

【図面の簡単な説明】

【0022】

【図 1】従来のリブ付きプリスターを開いた状態の平面図である。

【図 2】舌部を 1 箇所設けた場合のプリスターを開いた状態の平面図である。

【図 3】図 2 のプリスターにおいて、舌部を挿入した状態の A-A 断面図である。

【図 4】舌部を 3 箇所設けた場合のプリスターを開いた状態の平面図である。

【図 5】舌部と、リブを併用した場合のプリスターを開いた状態の平面図である。

20

【図 6】舌部とリブを併用した一体成形プリスターを開いた状態の平面図である。

【図 7】両シートに収納部がある場合 A-A の断面図である。

【図 8】図 3 破線円の舌部のバリエーションを示す拡大図である。

【図 9】図 2 のプリスターに内容物を収納した状態の A-A 面図である。

【図 10】内容物を入れた状態の斜視図である。

【図 11】プリスター外周部に窪みを設けた場合の底面図である。

【符号の説明】

【0023】

1 プリスター

2 収納部

3 リブ

4 a 嵌合凹部

4 b 嵌合凸部

5 舌部

6 プリスター外周部

7 折り目線

8 接合シート部

9 R 部

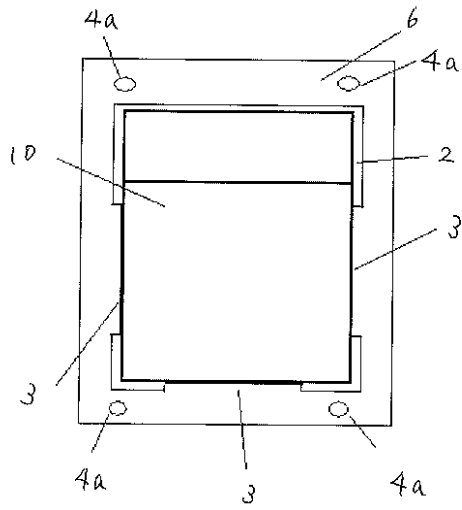
10 内容物

11 窪み部

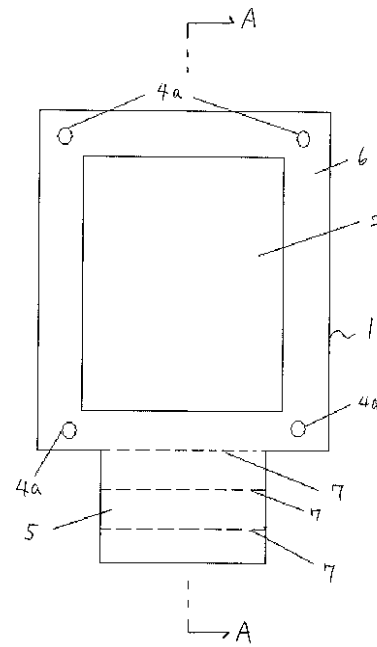
30

40

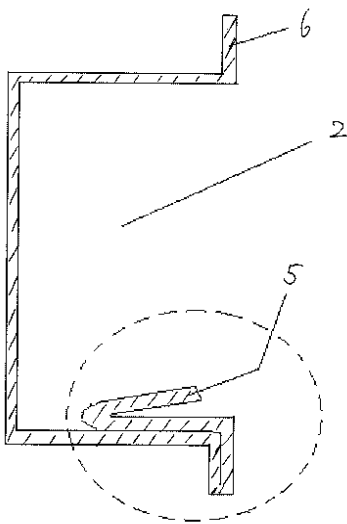
【図 1】



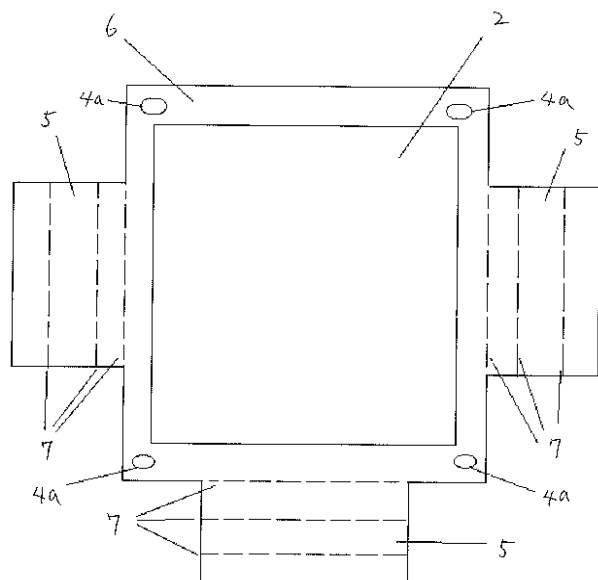
【図 2】



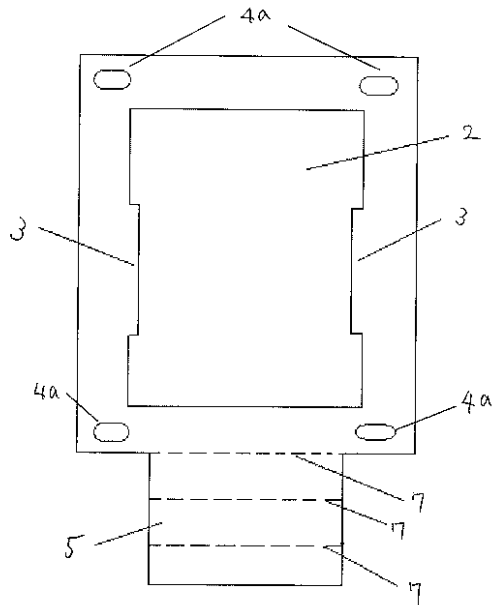
【図 3】



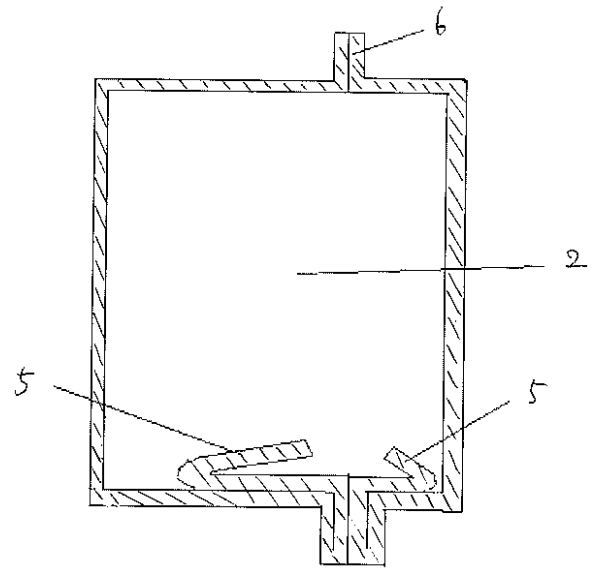
【図 4】



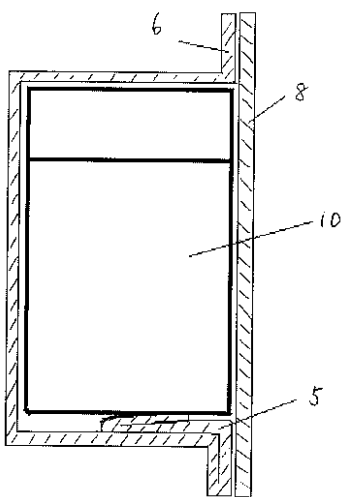
【図 5】



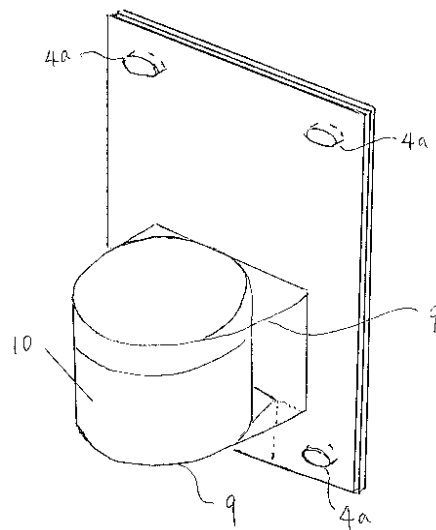
【図 7】



【図 9】



【図 10】



フロントページの続き

【要約の続き】

ての美観を保つことが出来る。

【選択図面】 図2